

親子の絆

「家庭の日」に寄せて

校長 内田恒一

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる（中略）
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ（後略）
（ドロシー・ロー・ノルト「子は親の鏡」から抜粋）

この詩は、スウェーデンの中学校社会科の教科書に収録されています。平成十七年二月に当時の皇太子殿下が誕生日の記者会見にて朗読されたことでも知られています。

この詩を読むたび、自分の子育てを振り返り、もっと「誉めて」あげればよかったなと反省しきりです。それでも、いろいろな方々のお陰で、「親」にさせてもらったんだなとつくづく思います。

置かれた環境や時代は違いますが、ライン等便利な通信機器が、人と人をつなぐ有効なツールとなっていて、現代においては、これまでに以上に日常のコミュニケーションが重要になっっていることは間違いありません。私自身心掛けていることは、年長いた母との一日数分間の会話を大切にするといいことです。短くても、団らんを通して互いに向き合えることで絆の深さを実感するこの頃です。

